



ビデオゲームの流行は『スペースインベーダー』（1978年、タイター）の登場を契機に始まりました。ゲーム雑誌や攻略本が書店に並ぶ以前、ゲームセンターで一部のプレイヤーがゲームを楽しんでいたころは、ゲームを攻略するために、日本各地のゲームファンがサークルを立ち上げ、プレイヤー同士の情報共有を目的とした同人誌が作成されました。やがて家庭でもビデオゲームに熱中する人たちが増えると、その需要に応えるために、出版社から多様なゲーム雑誌・攻略本が刊行されました。

ゲーム雑誌は、ゲーム会社が競うように発売したビデオゲームの事前情報への需要の高まりとともに、多くの出版社から刊行され、特集や付録など出版社ごとの個性がファンを楽しませました。

攻略本は、家庭用ビデオゲーム機からビデオゲームに触れたプレイヤーをサポートする重要な役割を果たすところから始まり、1990年代以降はゲームをプレイしていなくても単体の読

み物としても楽しめる魅力が加わっていきました。

ビデオゲーム黎明期の同人誌作成に携わった人のなかには、のちにビデオゲーム業界やビデオゲーム雑誌の世界で、目覚ましい活躍をする人もいました。ゲーム雑誌や攻略本が広く読まれるようになった後も、熱心なファンにより現在でも多くの同人誌が作成されています。

本展では、ビデオゲームそのものではなく、ゲーム文化を陰で支えた雑誌・攻略本・同人誌に焦点を当て、それらの変遷や、つながりを紹介します。また、日本の一般的な読者が触れる機会が少なかったもののビデオゲームの歴史を語るうえで外せない書籍やビデオゲーム業界を中心に読まれていた専門雑誌、海外で発行された雑誌も取り上げます。

インターネットが普及していなかった時代における最大のビデオゲームメディアであった「ゲームの本」の誕生から現在のネットメディアに至るまでの変遷をたどります。



イベントのご案内

展示替え

展示主催者による展示解説

日時 3月20日、4月3・24日（いずれも日曜日）
各日とも 14:00～15:00

解説 山本 耕平

申込 文学館（0134-32-2388）にて

参加費 入館料のみ

会場 市立小樽文学館



展示解説では、展示主催者が展示している資料について詳しく解説するとともに、展示会のごぼれ話や見どころを詳しく紹介します。ゲームの本について詳しい方もそうでない方もお気軽にご参加ください。

一部の資料を下記の日程で展示替えします。

- 第1期**
2022年3月5日（土）～3月25日（金）
- 第2期**
2022年3月26日（土）～4月8日（金）
- 第3期**
2022年4月9日（土）～4月24日（日）

展示会は4章で構成されており、主な展示資料は次のとおりです。

第1章 誕生！ゲームの本

ビデオゲームの本のうち、黎明期のものを展示します。
ゼビウス 1000万点への解法／インベーダー攻略法／TECHNICAL VG2 など

第2章 最新情報はまかせろ！ゲーム雑誌

各社から発行されたゲーム雑誌の通史をたどります。
LOGIN／Beep／ゲームボーイ／ハイスコア／GAMEST／ファミコン通信など

第3章 プレイヤーをサポートした攻略本の数々！

著名な攻略本をピックアップし、変遷を紹介します。
マザー百科／ダライアス外伝 究極攻略ムック／任天堂公式ガイドブック ポケットモンスターなど

第4章 キーワード展示

展示ケースごとにキーワードを設定し、それに該当する本を展示します。
常設展示【札幌南無児村青年団】おーるらうんど／リブル・ラブル FANTASY へのアプローチなど
【高橋名人】ファミコンランナー高橋名人物語／高橋名人のゲーム 35年史など
【伝説本】GAME FREAK／テレビゲーム時代 テレビゲームの現在など
第1期【海外雑誌】TILT／NINTENDO POWER／電子遊戯ソフト／など
【同人誌】究極！Video Game List 1995／ビデオゲームクロニクル① 奇々怪界など
第2期【読者投稿】月刊ゲーメスト増刊 ゲーメストアイランド黙示録
【裏ワザ】ウル技 大技林'90／ファミリーコンピュータ 人気ゲーム 裏ワザ大全集1 など
第3期【学年別学習雑誌】小学五年生／小学一年生など
【付録】DAMEST／ゲームメーカー就職最前線'96 など
そのほかにも、1996年の部屋を再現したスペースや、『Beep』『ファミコン通信』などの著名な雑誌・攻略本のバックナンバーのすべてを常設展示します。

休館日 3月7・14・22・23・28日

4月4・11・18日

開館時間 9:30～17:00

企画構成 藤井 昌樹（フリーランス）

山本 耕平（ゲーム本コレクター・研究者）

寺農 織苑（北海道大学大学院文学院博物館学研究室博士後期課程）

主催 市立小樽文学館

後援 小樽文学舎

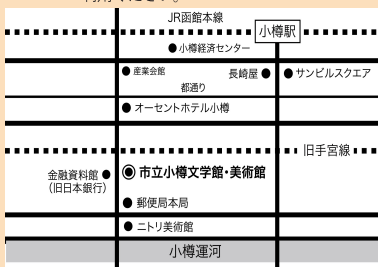
入館料 一般 300円

高校生・市内在住の70歳以上 150円

障がい者・中学生以下 無料

〔交通案内〕

電車 JR北海道「小樽駅」から徒歩10分
バス 北海道中央バス「市役所通」から徒歩8分
「稲穂十字街」から徒歩1分
自動車 小樽ICから約5分
駐車場 空きがない場合はお近くの有料駐車場をご利用ください。



ご来館の皆さまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止についてのお願い

- 発熱や体調不良等の症状のある方は、ご来館をお控えください。
- ご入館の際は「マスク着用」「手指消毒」「検温」をお願いします。
- 状況によっては会期中途中で展示会を中止する可能性もございます。

市立小樽文学館

O t a r u L i t e r a r y M u s e u m

〒047-0031 北海道小樽市色内1-9-5

TEL/FAX 0134-32-2388

公式ホームページ

<http://otarubungakusha.com/yakata>

[@otabun_otaru](https://twitter.com/otabun_otaru)



小樽文学舎のゆるキャラ
「オタブンくん」